情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU-R部会
地上業務委員会(第9回) 議事概要(案)

１ 開催日時

平成22年2月8日(月)14:00～15:30

２ 場所

総務省 11階 11階会議室

３ 出席者(敬称略、順不同)

[構成員]

髙畑 文雄(主査)、飯塚 留美、佐藤 明雄、佐藤 孝平、土田 敏弘、橋本 明、
足立 朋子(代理:松岡)

[説明者]

新 博行、石川 禎典、小松 裕、菅田 明則、本多 美雄

[事務局]

坂中移動通信企画官、山崎係長、中村官（移動通信課）

４ 配付資料

資料地－９－１　地上業務委員会（第８回）議事要旨（案）
資料地－９－２　ITU-R SG5 WP5D第６回会合報告書
資料地－９－３　ITU-R SG5 第４回会合報告書
資料地－９－４　IMT-Advanced 無線インターフェイス提案評価に関するコレスポンデンス・グループ活動について
資料地－９－５　ITU-R SG5 WP5D第７回会合への日本寄与文書（案）
資料地－９－６　ITU-R SG5 WP5D第７回会合への対処方針（案）

参考資料１　ARIB評価グループのステータスアップデート
参考資料２　ITU-R SG5 WP5D第７回会合の開催案内
参考資料３　ITU-R SG5 WP5D第７回会合の日本代表団一覧
参考資料４　地上業務委員会　構成員名簿

５　議事概要

（1）地上業務委員会（第8回）議事概要について

【資料地９－１】

地上業務委員会（第6回）議事概要（案）について、特段の意見なく承認された。

（2）ITU-R SG5 WP5D　第6回会合の報告について

【資料地９－２】及び【資料地９－３】

事務局より、平成２１年１０月に開催されたWP5D第6回会合及びITU-R SG5　第4回会合の報告があった。

【資料地９－４】

本多氏より、IMT-Advanced無線インタフェース提案の評価に関するコレスポンデンスグループの活動報告について説明が行われ、以下の質疑応答があった。

（質疑応答）

橋本構成員：コレスポンデンスコーディネータとして何か中間報告等を出す予定はあるのか。

本　多　氏　：ITUの報告の締切りがまだなので、何も出していない。3つのフォーラムに別れて、活動していることをWP5Dに報告しようと思っている。

（3）ITU-R SG5 WP5D会合への日本寄書について

【資料地９－５―１】

本多氏より、IMT-Advanced開発のためのアクション提案に関する寄与文書案について説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

（質疑応答）

佐藤構成員：6月2日が締切りとなっているが、一般の寄与文書の締切りと同じなのか。

本　多　氏　：同じである。

佐藤構成員：コーディネータとして取りまとめる時間はあるのか。

本　多　氏　：今回のコレスポンデンスグループは通常のITUのコレスポンデンスグループと異なり、提案者と評価グループ間の情報交流を活発にするためにやっている。今回のWP5D会合では、コレスポンデンスグループのまとめを報告するのではなく、実際どのような議論が行われたかを報告する予定。

高 畑 主 査：提案がいくつかあるが、5つ目の項目は一番最初に持ってくる方がよいのではないか。

本　多　氏　：了。ただ、中国、韓国との共同寄与文書を考えているので、２国に確認したい。
高 畑 主 査：中国と韓国と内容について議論を行っているということだが、修正しても問題ないのか。
本　多　氏　：順番を変更する程度であれば、２国は問題無いと言っている。

【資料地９－５―２】
　新氏より、ITU-R勧告M.1036-3改訂草案に向けた作業文章への修正提案に関する寄与文書案について説明が行われ、エディトリアルな修正を施したうえで承認された。

【資料地９－５―３】
　新氏より、作業文書[IMT.700]の進め方、及び修正の提案に関する寄与文書案について説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

（質疑応答）
橋本構成員：レポートIMT.700について日本は現行を維持。しかし、アメリカや欧州は不要と言っているので少数意見のレポートの延命策をどうのように図るかを考える必要がある。維持するためには論理を固めないといけない。
佐藤構成員：レポートを維持することを支持したい。取りあえずは日本の意見をWP5D第7回会合で示して、各国の様子を見たい。本議論がITUの場だけではなく、他の場でも起きているということを認知して頂くことが1つの目的だと思うので、今回出す意味はある。
事　務　局　：携帯電話の周波数アレンジメントにつながって行く議論になるため、審議の状況をみながらWP5Dに対応していく必要がある。情通審では議論が始まったところなので十分な入力はできないが、委員会の審議状況を見ながら地上業務委員会でも適宜ご対応頂くことが適切だと思う。
高 畑 主 査：もともと本レポートの作成を提案したカナダの代表とは議論しているのか。
新　　氏　　：最新の情報では議論していないが、カナダが中心になっているので現地で相談しようと思う。

【資料地９－５―４】
　小松氏より、新勧告草案IMT.Mitigationの作成に向けたスコープ及び基本的な考え方の提案に関する寄与文書案について説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

（質疑応答）
土田構成員：本干渉軽減技術に関する提案は、WRC－07でIMTに特定された周波数帯だけでなく、特定されていない周波数帯も検討していくことを提案するものかと思

われる。IMTに特定されていないところまで、検討範囲を広げるような提案をすると、反対に合うのではないかと思う。せめてもう少し柔らかい表現にしてはどうか。

小　松　氏　:干渉軽減技術について、あえて周波数帯の範囲を限定する必要もあまりないと考えるので、検討範囲を少し広くとって議論を進めてもらうよう提案するものである。

佐藤構成員:ご指摘については、IMT-WGでも議論となった。ひとまず本提案をさせていただき、WP4C側とはリエゾン等を送付し、調整をしていきたいと考えている。

橋本構成員:周波数の部分が強調されており、やはりWP5Dでも反対に合うのではないかと思う。周波数を強調するつもりでないのならば、干渉軽減に関する一般的な技術の勧告を作ることを提案の中心とし、表現については工夫された方がいいのではないかと思う。

髙畑主査:本寄与文書を提出することについては、皆様よりご同意いただいているところ。表現については、関係者で相談の上文言等を修正いただき、ITUへ提出していただきたい。

小　松　氏:了。

【資料地９－５―５】

菅田氏より、ITU-RレポートM.2039-1の改訂案へ向けた作業文書におけるコメント要求への返答について説明が行われ、特段の質疑が無く承認された。

【資料地９－５―６】

石川氏より、IMT.RADIOの作業文章に関する提案に関する寄与文書案ついて説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

（質疑応答）

橋本構成員:”over all”の言葉の定義については、当然明確になっているべき。日中韓の間ではどのように考えているのか。

石　川　氏　:技術的なフレームワークがどういうことを規定しているのかわからない。記載することで内容がはっきりしなくなるので、どちらかと言えば、提案する日中韓は不要という意見である。

橋本構成員:アップデート版は修正履歴が入っているところを提案するのか。

石　川　氏　: そのとおり。

高畑構成員:前回の日中韓の提案には”over all”の言葉はあったのか。

石　川　氏　:無かった。ワークプランの中にはフレームワークという言葉はあった。記録とし

て残るのであれば、この文言は誤解を招くだけなので削除した方がよいのではというのが今回の提案。

【全体を通しての質問】

土田構成員：アンテナアイソレーションについての寄与文書がないようだが。

新　　氏　　：ARIBで議論した結果、アイソレーションについての現状の作業文書の内容を確認し、現地対応のみとなっている。

（4）ITU-R SG5 WP5D第7回会合への対処方針について

【資料地9－6】

事務局より、ITU-R SG5 WP5D第7回会合への対処方針（案）について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

事　　務　　局：先ほど指摘のあったアイソレーションについては、対処方針に追記したほうがよろしいか。

高畑構成員：適当なところに追記をお願いする。

（5）その他

【参考資料1～4】

承認された寄書について、大きく主旨の変更がない限りは、文書案の変更の可能性がある旨、事務局から了承を求め、承認された。